

二にならせ給けり、略○中どのばらみな皇太后宮の御うすにはひにておはしまし、みやづかさな
とこまやかなりつるに、くるつるばみにならせ給、世中の十が九はみなにふみわたりたり、いは
ば諒闇ともいひつべし、おほやけよりも諒闇せよといふ宣旨くだりたればなりけり、

〔日本紀略後十三條〕萬壽四年十二月一日丁卯、四月一日庚午誤入道前太政大臣藤原道長公薨於法成
寺無量壽院、法名行覺、年六十二十一月丁丑、月次祭神今食等、依入道大相國薨被停止畢、仍有大祓、

〔中右記〕寬治八年嘉保元年九月五日、此曉右大臣顯房薨、年五十八、六條亭先十餘日、勞赤痢病、遂以薨逝、仍今
日雖可有宇佐遷宮并官奏皆以止了、主上河御愁歎之餘、雖供朝夕膳無出御、八日丙午、今夜藤

大納言左大辨季參仕仗座官人置有右府薨奏事、先外記申其由、上卿令藏人右少辨時範奏薨奏候
之由、仰聞食了由、外記指薨奏於文杖覽上卿之、見了後進御所邊、令時範奏留御所、返給文杖、抑從彼

家被申云、賻物別給葬司等被停止者、上卿還著仗座、時範仰云、可贈正一位、賻物別給任葬司等隨申
請、警固并廢朝三日者、明日平座停止之由、別不被仰便賻物等事、可隨申請由被仰時範了仰史、上卿

召內記、少內記菅原宣資參進、大內記在真籠九條前太政大臣、依召文章生少內記也被仰可作宣命並位記之由、此間且召外
記被問六府參入由、皆以參仕者、令內豎召六府、入從西中門方、列立仗座前庭、右少將有賢、左衛門權

佐有信、餘四府將監尉等也、六位帶弓箭可立北上也、而南上若誤歟、佐尉異位重行、无名對面、次仰可警固由、次位記宣命草等內
記覽上卿入筥上卿進御所邊、令時範奏返給、歸著仗座、仰內記令清書、清書了後、被位記請印儀如常、

但中務輔俄不參仕、依以右少將有賢為代官、帶弓箭少納言家俊請印於位記、上卿進御所重奏覽、返給
之後、著仗座、目使左大辨、左大辨參上卿前、給宣命於左大辨、次召中務輔代主殿頭公經朝臣、給位記

為使、內豎一人相具宣命使位記使等起座、行向彼家六條亭、時範仰云、來十一日例幣延引、其由可行大祓、上
卿召外記返給筥了、次被仰云、廢朝三日、又來十一日例幣延引者、又召右少辨時範、十一日可行大祓

之由宣下、時範則仰史、已及夜半事了、上卿先丙午之日有贈位例被相尋、法性寺太政大臣時、午日被